

序文

2019年、『脳卒中・循環器病対策基本法』が施行されました。今後、地域特性に応じた「都道府県循環器病対策推進計画」が策定され、「循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」、「保健、医療および福祉に係るサービス提供体制の充実」などが図られ、地域連携・多職種連携の下、循環器病対策が総合的に推進されます。このため、循環器専門医のみならず多くの一般医師にとって循環器病、とりわけ激増する心不全に対するトータルな理解が必要な時代になりつつあります。

これらのニーズに応える実践書として、循環器診療コンプリート『心不全』を発刊する運びとなりました。本書には大きな特徴が2つあります。

一つ目に、心不全の疫学をはじめ、診断、予防、治療（薬物療法とリハビリテーションを含む非薬物療法）、併存疾患の治療、緩和ケア等により構成されています。また、重症心不全治療、抗がん剤性心不全、高齢者心不全といった特色ある心不全はそれぞれ項目を独立させて解説しており、若手循環器内科医や循環器疾患の診療に携わる医師に必要な最新の知識が「網羅」された実践書になっていることです。さらに、急性心不全、慢性心不全、併存疾患や緩和ケア等の項目においては、薬物治療に役立つ処方例が記載されています。

二つ目の特徴として、紙面上で循環器・腎臓・脳卒中専門医によるディスカッションが生き活きと再現されています。腎臓・脳卒中専門医から循環器内科医に対して、診療のアドバイスが全項目の随所に記載されています。一方、循環器内科医からは、「腎臓/脳卒中専門医にQuestion」という内容を設け、診療にあたり腎臓・脳卒中専門医へ確認することを掲載しています。これは、心不全では慢性腎臓病や脳血管疾患などの合併がしばしば認められるとともに、循環器内科医は、腎臓内科医や脳卒中医から合併する心不全についてコンサルトを受けることが度々あるからです。

このような内容に基づき、患者を疾患別に診るのではなく、「心・腎・脳関連のトータルで診ること」を目指しており、他書に認められない新しいコンセプトの実践書であると自負しております。

本書が臨床の最前線で活躍されている若手循環器内科医をはじめ、循環器専門医、心不全診療に携わる一般内科医、研修医にとって最新の実践書となることができれば、編集・執筆者にとって望外の喜びとするところです。

2021年3月

香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学 教授
南野哲男